

平成 20 年（2008 年）の箱根山の火山活動

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○ 2008 年の活動概況

・噴気などの表面現象や熱の状況（図 1、図 2）

環境省・インターネット自然研究所の箱根・大涌谷カメラでは、大涌谷の噴気等に特段の変化はありませんでした。

12 月 19 日に行った上空からの観測（神奈川県との協力による）では、大涌谷及びその周辺での噴気などの表面現象や地表面温度分布¹⁾に、これまでと比べて特段の変化はありませんでした。

1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

・地震や微動の発生状況（図 3）

4 月に駒ヶ岳の南側を震源とする地震が一時的に増加し、4 日 08 時 06 分に発生したマグニチュード²⁾ 2.6 の地震により神奈川県の小田原市、箱根町、静岡県熱海市で震度 1 を観測しました。また、9 月に湖尻付近と芦ノ湖北部を震源とする地震が一時的に増加し、12 日 21 時 29 分に発生したマグニチュード 2.5 の地震により神奈川県箱根町、静岡県三島市、御殿場市、裾野市で震度 1 を観測しました。12 月には駒ヶ岳付近を震源とする地震が一時的に増加し、16 日 16 日 07 時 46 分に発生したマグニチュード 2.8 の地震により神奈川県箱根町、真鶴町、静岡県熱海市で震度 1 を観測しました。

箱根山では、2001 年 6 月から 12 月にかけて、駒ヶ岳周辺を震源とする活発な地震活動（最大地震 M2.8）があったほか、その後も年に数回程度の割合で一時的な地震の多発を繰り返しています。

上記以外の期間は、地震の発生回数は少なく静穏に経過しました。なお、火山性微動は観測されませんでした。

2) マグニチュード (M) は地震の規模を表します。図中の震源要素は一部暫定値で、後日変更することがあります。

・地殻変動の状況

気象庁の体積歪計³⁾や神奈川県温泉地学研究所の傾斜計⁴⁾による地殻変動観測では、特段の変化はありませんでした。

3) センサーで周囲の岩盤から受ける力による体積の変化をとらえ、岩石の伸びや縮みを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により変化が観測されることがあります。

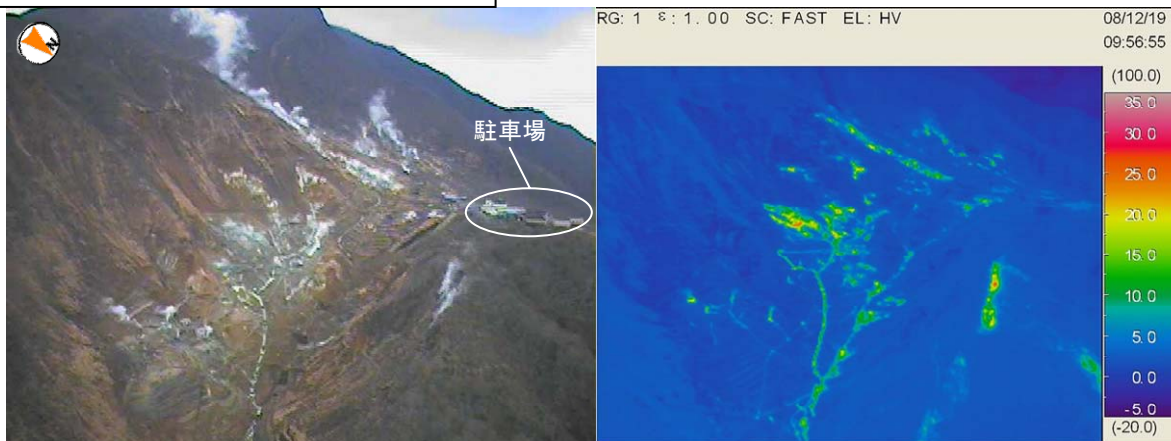
4) 地面の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により変化が観測されることがあります。

この資料は気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

※この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、独立行政法人防災科学技術研究所及び神奈川県温泉地学研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用しています (承認番号：平 20 業使、第 385 号)。

2008 年 12 月 19 日 北東側上空から撮影



駐車場の南東側に広がる噴気地帯からは、複数の箇所から弱い噴気が 10m 程度上がっていた。また、赤外熱映像装置による地表面温度分布では、噴気および地熱域に対応する高温域が認められた。

2007 年 12 月 17 日 北東側上空より撮影

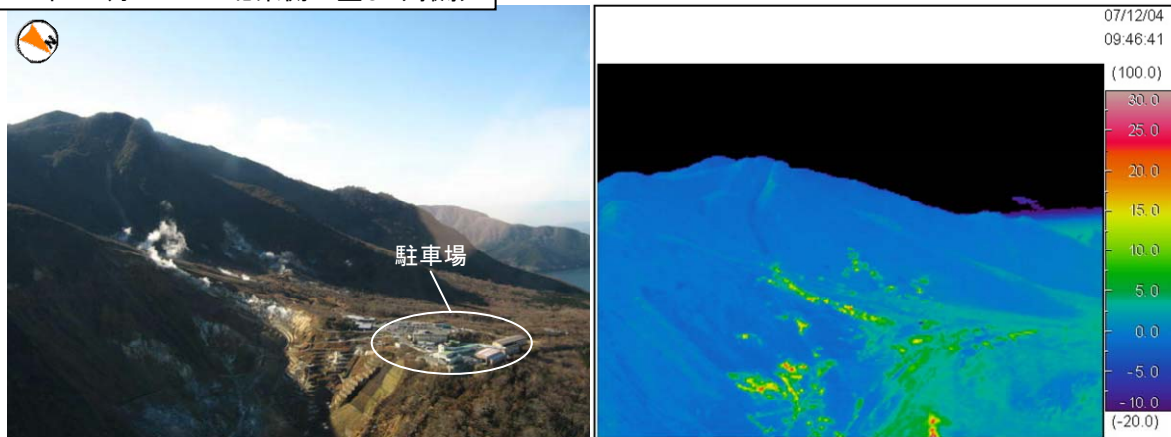


図 1 箱根山 大涌谷の地表面温度分布

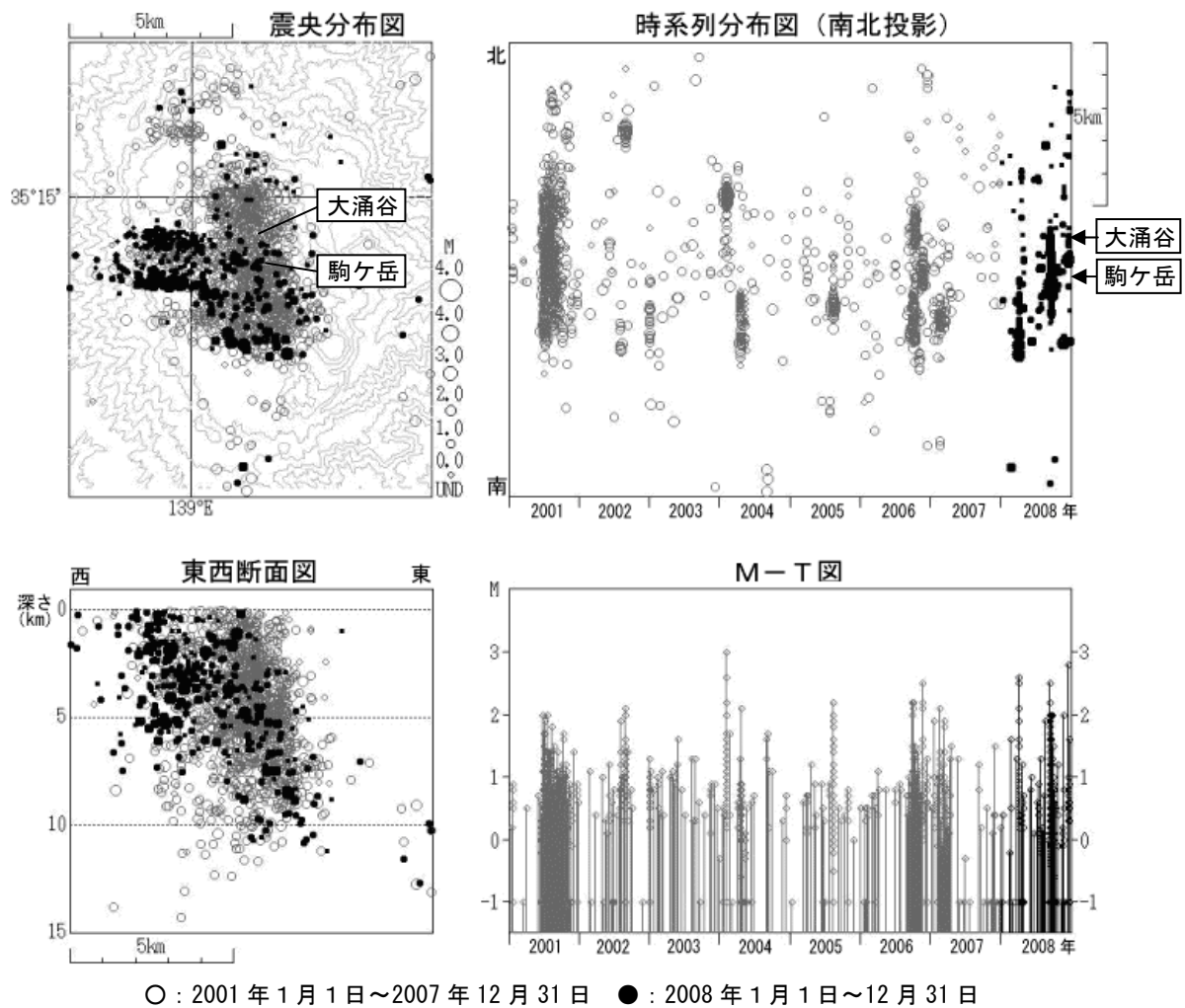


図 2 ※ 箱根山 地震活動経過²⁾ (2001 年 1 月 1 日～2008 年 12 月 31 日)

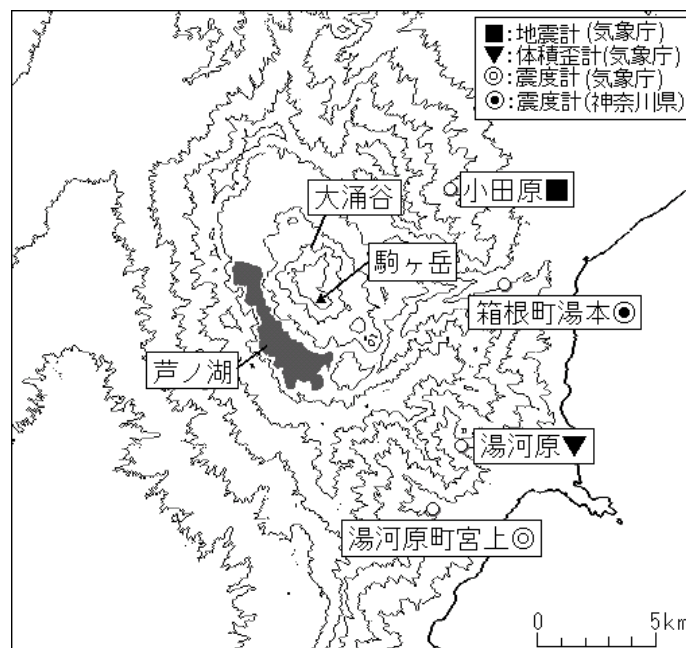


図 3 箱根山 観測点配置図 (小さな白丸は観測点位置を示しています)

表 1 箱根山 観測点一覧

種 類	地 点 名	位 置			設置高 (m)	備 考
		緯 度	経 度	標 高		
地震計	小田原	35° 15.8′	139° 05.3′	380	0	短周期 3 成分
震度計	湯河原町宮上	35° 08.8′	139° 04.8′	200	0	
体積歪計	湯河原	35° 10.0′	139° 05.4′	187	-150	